

活用事例	③ ⑨ 授業中に地震・津波が発生した場合の隣接する学校との二次避難場所までの合同避難訓練 【特色】 幼稚園、地域、警察との連携による合同避難訓練、安全週間への位置付け		
学校名	山口市立秋穂幼稚園・大海小学校		
日時	平成25年6月3日(月) 3・4時間目		
場所	中庭及び浜内高台 一次避難場所(海拔7メートル) 二次避難場所(海拔14メートル) 三次避難場所(海拔21メートル)	参加者	児童124名、教職員17名 秋穂幼稚園児、浜内地区住人 山口南警察署員、大海駐在所長

1 訓練のねらい

授業中に地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、二次避難場所まで整然と避難ができるかどうかを検証する。

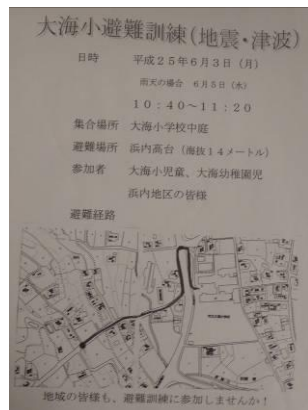
2 訓練の概要

(1) 幼稚園・地域・大海駐在所・南警察署との連携

ア 秋穂幼稚園から一緒に避難訓練に参加してほしいとの要望があり、一次避難場所で合流するように打ち合わせを行った。

イ 浜内地区へは、地区長さんに呼びかけ広告を地区に回覧していただくことをお願いした。

ウ 大海駐在所長・南警察署員の協力を得て、交通整理や避難場所での話などをお願いした。



地域への呼びかけ広告

(2) 事前指導 ～安全週間～

避難訓練日を含む一週間は「安全週間」とし、DVD「津波からにげる」や災害安全KYT資料を活用し、避難訓練の必要性や真剣に行うことの大切さ、危険を予測して判断し、行動するなどの学習をした。



「お：おさない、は：はしらない、し：しゃべらない、も：もどらない、な：なかない」を確認した。

(3) 訓練の実施

ア 緊急地震速報の放送(10:40)

訓練。緊急放送。緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。

・児童は教員の指示で机の下にもぐる。

イ 津波警報の発令

揺れが収まりましたが、津波警報が発表されました。落ち着いて高台に避難してください。

・津波警報発表により、一次避難場所ではなく二次避難場所への移動を指示。

- ・中庭に集合後、2・5年、1・6年、3・4年がペアになって手をつないで避難する。支援の必要な児童（車いす児童など）には教員が補助につく。
- ・秋穂幼稚園は、別ルートで同じ避難場所に向かう。



ウ 二次避難場所に到着

- ・点呼の後、学級ごとの並びから地区別の並びに変えて整列し、地区担当教員がつく。（保護者への引き渡し）

エ 南警察署員の講評

オ 校長の話

(4) 浜内地区の参加者からの感想

地区長さんから、今後は地域の参加者数を増やす努力をしたいという前向きな感想をいただいた。



(5) 事後指導

「避難訓練の反省」を活用しての反省を、各学級で行った。

- ・指示通りの確に行動できたか。
- ・平素の学習で身に付けた集団行動ができたか。

- ・安全に身を守るための適切な避難はできたか。

(6) 児童の感想

○「お・は・し・も・な」が全部守れました。（1年）

○ちゃんと4年の手を握ってた。ちょっとどきどきしてた。でも、本当だったらもっとどきどきしてたかもしれない。だから真剣に取り組んだ。（3年）

3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 幼稚園、地域と連携した避難訓練を行うことができた。2学年のペアで上の学年が下の学年の手を引いて静かに素早く避難でき、非常時の避難の仕方が身に付いてきた。

【課題】

- ◆ 一次避難場所にはトイレや雨宿りのひさしもないので、実際に地震による津波警報が出た際には、避難場所近くの家の協力をお願いする必要がある。
- ◆ 浜内地区の地区長さんが言われたように、地区の方の参加が増えるように、呼びかけの広告を早めに配布したり、回覧したりする。
- ◆ 災害安全KYT資料を活用して、様々な場所での危険を予測し、危険回避の方法を考え、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を更に高める必要がある。